

「21世紀COEプログラム」(平成15年度採択)中間評価結果

機関名	一橋大学	拠点番号	I08
申請分野	社会科学		
拠点プログラム名称 (英訳名)	知識・企業・イノベーションのダイナミクス (Dynamics of Knowledge, Corporate System and Innovation)		
研究分野及びキーワード	〈研究分野: 経営学〉(知識)(企業システム)(イノベーション)(人材)(ネットワーク)		
専攻等名	商学研究科 経営・会計専攻、商学研究科 市場・金融専攻、国際企業戦略研究科 経営・金融専攻、イノベーション研究センター		
事業推進担当者	(拠点リーダー名) 伊丹 敬之 教授 他 26名		

◇拠点形成の目的、必要性・重要性等: 大学からの報告書(平成17年4月現在)を抜粋

<p><本拠点がカバーする学問分野について> 経営学における、知識経営研究、企業システム研究、イノベーション研究の3分野。</p>
<p><本拠点の目的> 本拠点は、大きな産業的・社会的成果の実現に不可欠な知識・企業システム・イノベーションの三者間のダイナミクスを中心的研究テーマとして、1) その理論的解明と、2) それに基づく政策提言とを行うことを目的とする。また、そのために、1) 充実した研究インフラを整備し、国際的研究ハブの中核となる日本発の理論的成果の発信基地(日本の顔)となること、2) 実務界や社会との能動的な産学連携と情報発信基地となること、3) 次世代の研究者たる大学院生たちの育成を高度化していくこと、を狙っている。</p>
<p><計画: 当初目的に対する進捗状況等> 当初の計画通り順調に進捗し、とくに、当初2年間は拠点の事業推進基盤を強固にすることに重点を置いた。具体的には、拠点に参加している3つの組織にそれぞれ研究ユニットを組織化して研究インフラ整備を行い、データ/ケース・ベースの整備やその源泉となる産学連携プロジェクトを多数発足させた。また、海外機関との共同研究やさまざまな若手研究者支援制度などによって、大学院生の育成基盤の枠組み作りと実際の立ち上げに注力した。さらに、多数の国際会議を開催すること、多くの出版物を公刊すること、そして産業界との組織的な連携の場を作ることにより、社会的な情報発信も開始した。</p>
<p><本拠点の特色> 1) 知識・企業システム・イノベーションの三者間ダイナミクスという研究テーマ自体、これに焦点を当てた研究組織は世界的に類例がない。2) 三者ダイナミクスを包括的に分析するため「制度・構造」「経営者・人材」という2つの共通視点を設定し、3つの拠点の各研究ユニットでの研究をこの視点を中心に進め、かつ連携をするというマトリクス体制をとっている。3) 教育の方向性として、類似分野の研究者を多数擁する欧米の拠点がMBA教育に重きを置くのに対し、本拠点は研究者養成をも大きな任務と位置づけ、これらの拠点を凌駕する数の研究者の輩出を狙っている。</p>
<p><本拠点のCOEとしての重要性・発展性> 1) 日本の産業・企業の知識創造やイノベーションのユニークなメカニズムとその背後にある企業システムを、グローバルに理解可能な形で理論的に解明し、その成果を発信することにより、世界の学界に貢献し、なおかつ我が国経営学の世界的位置づけを高めることにつながる。2) 知識創造・イノベーション促進およびその背後の企業システムの本質的条件を解明する本拠点の研究は、日本の産業の競争力の向上と日本経済の活性化にとって有用な洞察と知見をもたらす。</p>
<p><本プログラム終了後に期待される研究・教育の成果> 1) 経営学研究における「日本の顔」となる研究拠点の実現。2) 日本の経営学界に良質な研究者(博士号取得者)を年々多数供給できる教育拠点の実現。3) 研究テーマに係るインフラ(データベース、ケースベース等)の蓄積。4) 大学主導で産学連携の強力なプラットフォームを作り、そこでの政策提言や知識蓄積による日本企業の競争力の強化への貢献。</p>
<p><本拠点における学術的・社会的意義等> 1) 本拠点のユニークな視点設定から生まれる研究成果は、世界の学界をリードすることになる。2) 研究からの波及効果として、日本でのビジネス・スクールの確立への貢献が挙げられる。ビジネス・スクール教育は、優れた研究と一体となってこそ高い有効性をもつので、一橋のみならず日本全体のビジネス・スクールのための知的基盤をこの拠点が提供する。3) 社会的な波及効果については、商学研究科をはじめとするエグゼクティブ・プログラムなどのシニアエグゼクティブ教育の充実がこの拠点の活動蓄積を通じて期待できる。さらに、産学連携プロジェクトによる現場の深い洞察との交流、事例研究の蓄積により、実務に真に意味のある深い知識の貯水池が形成される。</p>

◇21世紀COEプログラム委員会における評価

<p>(総括評価) 当初計画は順調に実施に移され、現行の努力を継続することによって目的達成が可能と判断される。</p>
<p>(コメント) 現時点において本拠点の研究活動は当初の計画に基づいて順調に進行している。知識、企業システム、イノベーションの三者間のダイナミクスに関する研究は、世界で初めての試みであり高く評価できる。企業内部から集めた広範かつ詳細な資料に基づいた研究成果に特に期待したい。本拠点の研究基盤計画は教育計画も含めて拠点形成の本来の理念と目的を十分満たしている。 今後の課題として、イノベーションの研究の分野では、研究者に科学技術に関する相当専門的な知識が必要であると思われるので、その体制づくりを十分に検討されたい。 また、本拠点の本来の目標は三分野の有機的連携によって生まれる研究成果を上げることにある。しかし、その体制と仕組みが明確ではないように考えられるので、この点に関して早急に検討されたい。</p>